

問17 次の【Ⅰ群】の記述と【Ⅱ群】の人物とを結びつけた場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

【Ⅰ群】

- A 著書の中で、「すべてのものの中に、神的なものが、神が、宿り、働き、かつ支配している。」と述べて、「万有在神論」に立ち、子どもの中に宿る神性を開発することこそ教育の本質であるとした。彼は、子どもの発達における遊びの役割を重視した。
- B コメニウス（Comenius, J. A.）が知識・技術を習得することによって被教育者の精神内容を豊富にすることを教育の目的とする実質陶冶の立場に立っていたのと異なり、記憶・推理・想像などの精神作用を練磨し、一定の精神的態度を習得させることを教育の目的とする形式陶冶の立場に立っていた。
- C 外から積極的に教え込もうとする積極教育ではなく、子どもの自然の成長力や活動性に従って教える消極教育が大切であり、その実践のためには、子どもの自然な発達を保障し、よい環境を整えることが必要であるとした。そして、子どもには子どもの感じ方、考え方、ものの見方があり、それを尊重することが教育の基本であるとした。

【Ⅱ群】

- ア ロック（Locke, J.）
イ フレーベル（Fröbel, F. W.）
ウ ルソー（Rousseau, J. J.）

（組み合わせ）

- | | A | B | C |
|---|---|---|---|
| 1 | ア | イ | ウ |
| 2 | ア | ウ | イ |
| 3 | イ | ア | ウ |
| 4 | イ | ウ | ア |
| 5 | ウ | ア | イ |

問20 次の文は、プログラム学習に関する記述である。不適切な記述を一つ選びなさい。

- 1 プログラム学習の最大の意義は、学習指導の個別化と効率化であり、重要なことは、学習の効果をあげるために、学習プログラムを綿密な検討のもとに理論的かつ精緻に作成することである。
- 2 プログラム学習は、子どもの積極的な反応が求められる点で、学習中心の指導方法であり、教授中心的な要素はもっていない。
- 3 プログラム学習は、スキナー (Skinner, B. F.) の動物実験に基づく学習理論に基づいて体系化されたもので、学習成立の過程を心理学的に明らかにし、その効率を高めようとするものである。
- 4 スキナー (Skinner, B. F.) は、プレッシー (Pressy, S. L.) の考案したテストイング・マシーン (テストし、採点し、教える簡単な機械) を改良し、ティーチング・マシーンを開発した。
- 5 クラウダー (Crowder, N. A.) の学習プログラムは、学習者の反応の多様性に応じて異なったコースを用意して学習の個別化を図ろうとするものであり、分岐型 (ブランチング) プログラムとよばれる。

問36 次の文の（ ）にあてはまる語句として、最も適切なものを一つ選びなさい。

（ ）とは、「目標に準拠した評価」のための「基準」作りの方法論であり、学生が何を学習するのかを示す評価規準と学生が学習到達しているレベルを示す具体的な評価基準をマトリクス形式で示す評価指標であり、レベルの目安を数段階に分けて記述して、達成度を判断する基準を示すものである。学習結果のパフォーマンスレベルの目安を数段階に分けて記述して、学習の達成度を判断する基準を示す教育評価法として盛んに用いられるようになった。これまでの評価法は客観テストによるものが主流を占めていたが、知識・理解はそれで判断できたとしても、いわゆるパフォーマンス系（思考・判断、スキルなど）の評価は難しい。ポートフォリオ評価などで（ ）を用いて予め「評価軸」を示しておき、「何が評価されることかなのか」についての情報を共有するねらいもある。

- 1 正統的周辺参加
- 2 集団準拠評価
- 3 ルーブリック
- 4 PISA調査
- 5 マスタリー・ラーニング

問48 次の文のうち、文部科学省の「人権教育の指導方法等に関する調査研究会議」が平成20年3月に公表した「人権教育の指導方法等の在り方について」（第三次とりまとめ）に照らし、最も適切な記述を一つ選びなさい。

- 1 人権感覚とは、人権の価値やその重要性にかんがみ、人権が擁護され、実現されている状態を感知して、これを望ましいものと感じる価値志向的な感覚をいい、反対に、これが侵害されている状態を感知して、それを許せないとするような感覚を含むものではない。
- 2 人権教育を通じて培われるべき資質・能力については、①知識的側面、②価値的・態度的側面及び③技能的側面の3つの側面から捉えることができるが、このうち、①知識的側面の資質・能力は、人権感覚に深く関わるものである。
- 3 人権尊重の理念について、特に学校教育において指導の充実が求められる人権感覚等の側面に焦点を当てて児童生徒にもわかりやすい言葉で表現するならば、「自己犠牲の精神の下で他の人の大切さを認めること」であるということができる。
- 4 自分の人権を大切にし、他の人の人権も同じように大切にする、人権を弁護したり、自分とちがう考えや行動様式に対しても寛容であったり、それを尊重するといった価値・態度や、コミュニケーション技能、批判的な思考技能などのような技能は、ことばで教えることができるものである。
- 5 学校は、公教育を担う者として、特定の主義主張に偏ることなく、主体性を持って人権教育に取り組む必要があり、学校教育としての教育活動と特定の立場に立つ政治運動・社会運動とは、明確に区別されなければならない。